

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275800165		
法人名	有限会社しあわせの家		
事業所名	グループホーム大綱しあわせの家		
所在地	千葉県大網白里市南横川3148-20		
自己評価作成日	令和2年11月14日	評価結果市町村受理日	令和3年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のお年寄りが最後まで安心して暮らすことのできるグループホームの運営に努め、常に更なる進化に挑戦し続けています。ADLを保つために毎日のアクティビティに力をいれています。散歩、ラジオ体操、個別の機能訓練、その他のリクリエーション活動、栄養のある野菜が豊富な食事などで、長く人生を楽しんで頂けるように工夫努力しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	令和3年2月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR外房線大網駅から車で15分ほど、周囲は畑や雑木林が多く自然環境に恵まれた、閑静な住宅街の2階建ての住宅をグループホームとして使用しています。住居型有料老人ホームに隣接し、各種行事、ボランティアの受け入れ、研修、防災訓練など連携して運営しています。
地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、全職員で共有し、チームワークで利用者の思いに寄り添い、家庭的で温かみのある支援に努めています。健康維持のため新鮮な野菜を直接農家から購入し、バランスの取れた家庭料理を提供する他、機能維持のため歩行訓練と下腿トレーニングを個別プログラムを作って推進しています。家族には、ブログを毎月2回更新し現場の様子をオープンにしています。医療体制も充実し、医師、看護師、職員の連携により看取りの体制も整っており、家族に安心感を与えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝スタッフ全員で理念唱和をしている。	「地域のお年寄りが最期まで安心して暮らすことのできるグループホームの運営に努め、常に更なる進化に挑戦し続ける」との理念を掲げ、毎朝の朝礼や申し送り時に、繰り返し唱和・共有する事で、日頃のサービスの中で実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(定期的な運営推進会議、ボランティア活動の受け入れ、地域のイベントへの参加、)などが年中行事として組まれてはいるが、本年に限りコロナの影響で外部との接触を極力おさえている。もしくは中止せざるを得ない状況にある。	自治会行事の参加や各種ボランティア(クリスマスキャロル・紙芝居・津軽三味線演奏など)受け入れなど地域交流を行っていましたが、コロナ禍でほとんど中止になり、現在は可能な場合を除き、散歩時の会話(挨拶や立ち話)の交流にとどまっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族が認知症になり困っている方が近隣にいらっしゃったら、当施設に相談できるように玄関にその旨表記し玄関に掲示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年はコロナ禍の影響で運営推進会議への参加者を内部のスタッフに限って行っています。	会議は、高齢者支援課職員、民生委員(3名)、家族代表、利用者代表、職員などで偶数月に年6回開催していますが、コロナ禍の現在、職員(社長参加)で実施し会議の議事録を市役所に提出し確認を貰っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のご担当者とは週に1回くらいのペースで面会、もしくは電話で連絡を取っています。運営推進会議連絡、空室状況連絡、施設の修繕工事、その他諸々。	市の担当窓口とは、常に連絡を取り合い、様々な件で訪問し相談しています。運営推進会議にも担当者が毎回出席し、その都度アドバイスを貰うなど、良好な協力関係を継続しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が基準を把握しています。現在利用者お一人だけは利用者を守るために一時的な(20分以内の)拘束をご家族のご理解を得(面会して説明、書面で合意)た上で行っています。車椅子座位時の拘束帯を使用。拘束帯はご家族が購入。	身体拘束廃止委員会は、運営推進会議時に年4回実施し、議事録に記載しています。社外の研修はコロナ禍のため中止していますが、社内研修は毎月実施しています。日中玄関は施錠せずブザーにより職員が見守りをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員と利用者の間では問題は無いが、利用者同士での不具合が生じる事があるので注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者同士の関係を把握し、関わり合い、支ええるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は十分な説明をし、理解納得を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所に合わせて、意見、希望を伺い職員との話し合い等で実践しています。	家族については、来訪時、運営推進会議、電話連絡等で、意見・要望を聴き運営に反映させていましたが、現在は面会を自粛しており、電話やLINEなどで対応しています。また外部評価時の家族アンケートも参考にしています。利用者については、日頃のふれあいや、毎月訪問(コロナ禍で現在は自粛中)する介護相談員から情報を得ています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の会議時職員との意見交換を行い提案を出し合い運営に反映しています。その他日々サイボーズや日報等を通じて意思の疎通及び情報を共有しています。	管理者は、日頃の業務や各種会議の中から意見を吸い上げ運営に反映しています。特にチャットワーク(SNS)で全職員と問題点や、解決方法などを共有、その意見や提案は、歩行器の購入・運動プログラムの推進、トイレの増設など運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望をできる限り受け入れ、各自が向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、法人内個別能力評価等を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の交流と勉強会や意見交換等各人の技能向上を目指す取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と本人が必要としていることに応じた対応ができるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護されているという意識をなるべく持ってもらうよう出来る事は協力してもらって共同生活での関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の訪問を大切に、家族との絆を大事にし共に支えて行く関係を築けるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護されているという意識をなるべく持ってもらうよう出来る事は協力してもらって共同生活での関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で、頻度が減ってしまいましたが、ご家族の訪問を大切に、家族との絆を大事にし共に支えて行く関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最近、利用者の事故防止の為(時間を問わず目的なし徘徊される利用者がある為)また治安の悪さに備える為門扉の施錠をしています。馴染みの人や場所との関係は途切れないよう支援しています。	コロナ禍の為、直接訪問を控えてもらい、ブログ開示しています。2か月毎に訪問する後見人、利用者の通院時に同行する家族、電話で話し合う利用者と家族、四季毎に衣替えに来る家族、LINEを繋いで動画で交流する家族もいますが頻度は低く、2か月から半年間隔の来訪となっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関わり合い、支えあえるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じて本人・家族をフォローし、相談や支援に努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望・意向の把握に努め本人本位に検討しています。	職員は、介護支援する中で利用者の想いに添えるように意向を汲取る働きかけをしていますが、利用者からの主な要望は、施設の外に出たい(外出したい)と希望する人が多いようです。以前は良くあった家族との外出ランチもこの一年はできなくなっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの情報収集把握に努めフェイスシート等に反映させています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に生活をする中での観察で一人ひとりの有する力等現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議等でケアのあり方について話し合い現状に即した介護計画を作成しています。	利用者一人につき月1回の担当者会議を行い、利用者ごとに課題を抽出しています。管理者、ケアマネジャー、主任、職員等でモニタリングと見直しを行い、利用者の望みを叶えられる計画になるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に残し、些細な変化を見逃すことのない様話し合い、計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	連絡が取れない家族が1/3ですが、その都度生まれるニーズに対応して、支援やサービスに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で、頻度が減ってしまいましたが、市や地域の行事(音楽会など)に参加しています。近隣の住民の方の声がけで会話を楽しまれています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を第一に適切な医療を受けられるよう支援しています。提携医療機関以外でも本人かかりつけの医療機関など、対応出来る体制をとっています。	内科医による月2回の10分ほどの訪問診療により健康状態の維持(体調管理)を行っています。また、必要時に訪問歯科診療を施設で受けています。皮膚科(年に2回)、整形外科(年3回ほど転倒や骨折時に)、泌尿器科(年に2回ほど)の通院支援を職員や家族が行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に相談し利用者が適切な受診が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合に備えて病院関係者との関係作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを希望の場合、可能な限り提携医療機関との連携を図り、重度化した場合ご家族の同意の下、医師の指示を仰ぎできる限りの支援に取り組んでいます。	過去3年以内に行った看取り支援は一人だけですが、ターミナルと診断された後に家族と同意書を交わして支援しています。看取り時は現場主任を中心に社内研修を行い、終末期に関する職員の支援レベルの向上に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルをホーム内に掲示し速やかに対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、防災避難訓練と自主避難訓練を実施(年2回)その他に数回実施しています。近隣住民の協力を得られるよう日々努めています。	防災避難訓練は、自主訓練を年2回実施しています。スプリンクラーなど必要な防災設備は整っています。ホームとしても大規模災害時には地域に貢献できるように、自家発電機の設置やトイレの増設、備蓄などを準備しています。	高齢者も多いので、利用者の誘導等実際に即した災害避難訓練を、消防署と地域(自治会)の連携のもと合同で実施することが期待されます。また防災用品を含む備蓄品の内容、数量ともに見直し継続が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し一人一人の性格に合わせた言葉かけをし、プライバシーをそとねないよう対応しています。	利用者のプライバシーを守るために、入浴やトイレの使用時は、非接触型の対応を行い、他の利用者とは対面しない様に工夫しています。職員は、月1回の内部研修で、接遇やプライバシーについての講義等を受講しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情や行動から思いを汲み取り自己決定ができるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに沿った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪やカットのサービスをしています。身だしなみや、おしゃれができるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好みを聞いたり、食材の買い物と一緒に出かけたり、準備や後片付けなどを行っています。	食材は、職員がスーパー(約20分圏内)で買い出し、野菜類は契約農家から仕入れ、バランスの良い調理を工夫しています。利用者の摂取量を把握して、必要があれば食事介助しています。職員の調理教育、食事前の嚥下体操やイベント食(誕生日、クリスマス、節分等)も欠かさず行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良いメニューや水分摂取に特に気を配っています。食事の摂取量、水分量をチェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声がけと誘導し、歯磨き、うがいなどを行い、常に清潔が保てるよう支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを活かしてトイレでの排泄を促す支援をしています。	排泄自立者は4名、利用者のほとんどが紙パンツやおむつを利用しています。職員は、夜間は7回、日中は5回、ほぼ2時間おきにトイレ誘導をしています。職員は、利用者の脱水や便秘、その他体調不良を気遣い、排泄管理と支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物に工夫をしたり、運動を働きかけ、医師との相談など、個々に応じた対処の支援をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2回となっていますがそれ以外ご本人の都合やタイミングに合わせてシャワー等個々に合わせた支援をしています。	利用者は週2回、約30分以内で入浴し、手の届かない身体(背中や足等)を職員が洗体支援しています。入浴が自立可能な利用者が2名います。職員は利用者の身体状況をみて、半身浴やシャワー浴、清拭等を判断して個別に支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者本位に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり理解をしており、変更があった場合職員と利用者に説明し、症状の変化を見逃さないよう、確認と誤薬のない様努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍故、頻度は減りましたがドライブしたり、畑で芋ほりをしたり、公園で昼食を摂ったり、散歩、カードゲーム等気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があればその都度出かける支援をしています。買い物や地区の催し物に参加しています。	利用者は全員歩行力があり、希望者(多くて5名)は、好天の日に、シルバーカーや杖をつけて近隣公園まで約30分の散歩を楽しんでいます。コロナ禍の為、受入れ可能な外出先がなくなっていて、約8、9名にドライブの車中から地域の景色に触れられるリフレッシュ支援を時々行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度のお金をお預かりしていません。コロナ禍故、頻度は減りましたが個々にコンビニやスーパーなどへ買い物に出かけレジでお支払いしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やお便りは自由に出来る様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が利用者に不快や混乱をまねかないよう配慮し、季節感を入れ居心地よく過ごせる工夫を明るく清潔な空間づくりに努めています。	広く開放的なリビング兼食堂は、日当たりも良く清潔で、湿度や温度も調節され、利用者が居心地よく過ごせるようになっています。厨房が一体となっているので音や匂いで生活感があります。利用者は、コロナ禍ですが、散歩、日光浴、ラジオ体操、レクリエーション(芋ほり、花壇作り)そしてペットの猫と戯れたり元気に過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者本位に考えています。思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と利用者で使い慣れた家具や衣類を整理したり模様替えをし、居心地のよい居室づくりを支援しています。	居室は、清潔で適度な広さもあり、利用者は馴染みの、タンス、家族の写真、ぬいぐるみ、位牌などを持ち込み、自宅に居るように自分のペースで居心地よく過ごしています。居室担当者は、衣替えや整理整頓の他、室温にも気を配っています	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ること、わかること等の残存機能を活かしながら見守りと安全に注意生活していただけるよう日々支援しています。		